

# 取組事例の紹介 ②



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

## 「異年齢交流」による、いじめの未然防止

「いじめ未然防止のための取組」と聞いて、まず多くの教員が思い描くのは「早期発見・早期対応」「毅然とした指導・外部機関との連携」・・・ではないでしょうか。しかし、それらとともに、いじめの問題を未然に防止する上で大切なことは、人と関わることを喜びと感じる体験を積み重ね、自ら進んで他者や集団に貢献する姿勢を養うことです。

### “絆づくり”でいじめを減らす

他者から認められ、他者の役に立っているという「自己有用感」を児童生徒全員が感じとれる“絆”づくりを進めることができれば、いじめに向かう児童生徒は減ります。

国立教育政策研究所 生徒指導リーフ9「いじめの未然防止Ⅱ」より

## ～ K小学校の取組 ～

### グラウンドデザインに「異年齢交流」を位置付ける

K小学校のグラウンドデザインには、異年齢交流の目的がしっかりと位置付けられています。

#### 平成24年度 K小学校グラウンドデザイン（一部抜粋）

学校教育目標 **心豊かで たくましい子ども**

<めざす子どもの姿>

**ねばりづよく もとめる子（知）**

**きたえる子 はたらく子（体）**

**思いやる心のある子  
人のためにつくす子（徳・善）**

（本年度の重点）

○異年齢交流の推進・・・[思いやる心]

ねがいを実現するための具体の場

生活科・総合的な学習の時間の充実

<育成したい力>

① 自分の課題を見つけて、ねばり強く取り組む力

② 自分の考えをまとめ、相手を意識して表現できる力

③ 自分の生き方を考える力や他者を思いやる心

○ 異年齢交流学習を全学年位置づけ、体験を通して思いやる心を育み、よりよい人間関係を学びます。

### 1学期始業式の校長講話より

悪い心が出てしまうと友だちをいじめたり、意地悪をしたり、いやがることを言ったりします。こんな人を見かけた時は、教えてあげましょう。「君は、人を思いやる心を忘れているよ」って。全員が人を思いやる子どもになって、みんながみんなを思いやる心と優しさがあふれる、明るく、楽しい学校にしましょう。

## 日常的な「異年齢交流」

学校では日頃から異年齢交流を積極的に実施しています。6年生と1年生と一緒に遊んだり清掃したり日常的な交流も行われています。



縦  
割  
り  
清  
掃



6  
年  
生  
の  
読  
み  
聞  
か  
せ

## 児童会祭り

11月、児童会祭りが行われました。今年は、本部役員が校内を巡りながら、班ごと笑顔の写真を撮影する活動も加わり、あちらこちらに笑顔がいっぱいあふれていました。学校じゅうに児童会スローガン「笑顔の輪・あいさつの輪・おもいやりの輪」が広がる児童会祭りになりました。



## 児童会祭りの評価

実施後には、相手意識をもって自分の気持ちを表したメッセージカードや、児童会本部の3人がお祭り中に撮影した笑顔の写真が廊下に掲示されました。お祭りを通してただ楽しかっただけで終わらず、お互いのつながりを意識できる工夫がたくさん見られます。

ずっとはぐれな  
いように、手を  
つないでくれて  
ありがとう



## 異年齢交流の広がり ～学校間連携へ～

各学年の計画により、地域の保育園・高校との交流活動も行っています。



園  
児  
と  
の  
交  
流



高  
校  
生  
と  
の  
交  
流

大切なことは「何をさせたのか」ではなく、「誰の」「何を」育てるために「どのように」取組を行ったのかです。教師の共通理解は何よりも必要なものです。「自己有用感」獲得のための交流活動であることをきちんと自覚しないまま、ただやらせている、思いつきで児童生徒を指導しているということでは効果は期待できません。児童が成長する見通しを持って、それを励まし促すような働きかけを行っていくことが、教師に求められる働きかけ方です。